

### RM学会 企業の巨大化とRMで議論 第26回全国大会開く、新理事長に吉川氏

日本リスクマネジメント(RM)学会は九月二十八・二十九日の両日、栃木県小山市の白鷗大学で「第26回全国大会」を開催した。一日目は、会員総会およびRM三賞授与式と研究報告が行われた。

総会では、平成十四年度一般経過報告、同十五年度事業計画および予算案を審議、原案どおり承認した。役員改選では、理事長に吉



(研究報告する森氏)

川吉衛氏(大阪市立大)を選任した。

また、これまで日本リスク・プロフェッショナル(RP)協会の傘下に日本RM学会、家庭危機管理学会、危機管理総合研究所を置いていた組織を十月一日付で変更することを決めた。新組織は、RMの純然たる学術研究機関の日本RM学会と、RMの実践的研究と資格認定を行う機関の日本RP学会を並列の関係とした。RP学会の傘下に危機管理総合研究所と家庭危機管理研究所(家庭危機管理学会を改称)を置いた。RM三賞では、学会賞に亀井克之氏(関西大)の『新版フランス企業の経営戦略とリスクマネジメント』(法律文化社刊)、優秀

著作賞に藤江俊彦氏(千葉商科大)の『実践・危機管理読本』(日本コンサルタントグループ刊)、石井至氏の『リスクのしくみ』(東洋経済新報社刊)、有田敬三氏(㈱生活経済研究所)の『マネープラン読本』(日本経済新聞社刊)が受賞した。

研究報告では、和久井憲子氏(千葉商科大)が「秘密保持契約書(None Disclosure Agreement)の有効性と限界」と題して、人材流失、情報流失という企業経営における人的リスクを最小限に食い止めるために、企業は情報の保護、就業禁止を盛り込んだ秘密保持契約書(NDA)を作成する。このNDAとは何か、なぜ必要か、人的管理としてのNDA条項に関して留意すべき点などについて報告した。

統一論題①「企業の巨大

化とRM」では、鴨池治(東北大)、貴志幸之佑(大阪商業大)、江尻行男(東北福祉大)、森幸弘(下関市立大)の四氏が報告した。

鴨池氏は、日本における銀行のケースを取り上げ、銀行が合併したり持株会社を創ることで巨大化する場の組織上のリスクを検討し、銀行が合併し巨大化することで発生するリスクをオペレーショナル・リスクとして捉え、同リスクについて考察した。

貴志氏は、「日本金融統合におけるRM」をテーマに、①M&Aのリスクとシステム障害の意味するもの、②みずほフィナンシャルグループランティ(FG)形成の経緯とシステム障害の原因究明について分析し、システム障害の根底にある日本の銀行システム全体に及ぼすべき基本

的問題として「企業統治機構の欠如」「不良債権の解消見通しが不明瞭で経営体質改善は期待されない」「ビジネス・ビジョンが不透明」の三点を指摘した。

江尻氏は、小売業を取り上げ、①小売業界の不振と負け組み企業、②大規模小売企業の破綻・業績悪化の背景、③経営改革と業界の再編について分析し、今後の課題として、RMの重要性をあげた。特に、巨大小売業および地域中堅小売業は巨大リスクを潜在的に有しているという社会的責任認識が必要であり、巨大小売業の名門意識と古い経営・営業体質に伴うRM認識の欠如を排さなくてはならないと述べた。

森氏は、総合小売業のダイエーの事例を中心に、大規模小売業における経営困難が、経営戦略リスクのマネジメントが十全でなか

ったことから生じていることを論じ、大規模小売業のリスクへの挑戦、新たなリスク処理手段の利用(天候リスクへの対応)についても触れた。

二日目は、天野雄介氏(KPMGビジネスアシュアランス)が「業務プロセスのRM」と題して報告、企業戦略分析、ビジネスプロセス分析、リスク評価からなる同社の業務プロセスRMを紹介した。

統一論題②「航空RM」では、南方哲也(福岡国際大学)、高木利勝(リスクファイナンス研究所)、御古正彦(全日空)、廣島克佳(航空自衛隊)の四氏が報告した。

南方氏は、航空保険の沿革、航空機体保険、航空責任保険、その他の航空保険および再保険について説明した。

高木氏は、「同時多発テ

ロにおけるタイミング・リスクの戦略的意味」をテーマに報告した。この中で、同氏は、同時多発テロにおける元受保険会社の航空保険は、ファイナイト再保険に再再されてきた。ファイナイト再保険は、延長保険期間を設けて填補金の100%を延長保険料として受再者が回収する緊急融資であり、量的リスクは転嫁されない。量的リスクを保有するファイナイト再保険がリスクファイナイト再保険として有効なのは、リスクの時間的移転があるからである。このように受再者が資金の前倒を提供し、出再者は損失の繰延を享受することとはタイミング・リスク・ファイナンスである。こうした派生的再保険に顕れるリスク・ファイナンスを全体的にRMの体系で捉えなおす時、タイミング・リスクは戦略的RMによってし

か掌握できない。量的リスクは財務諸表などで経営管理的に計量も移転できるが、時間的リスクは事業計画やキャッシングフロー計画などで戦略的に意思決定されるしかないからである。同時多発テロ事件における本邦元受保険会社のファイナイト再保険受再の失敗は、伝統的保険会社の戦略的RMの失敗だといえる」と指摘した。

御古氏は、「RMツールを利用した安全飛行の推進」をテーマに、運航業務におけるリスクコントロールを支援する実例を中心に、航空会社の経営基盤である航空安全のRMについて報告した。

廣島氏は、「航空事故防止活動の特性とRM」をテーマに、①全般的諸特性および事前対策期の諸特性、②渦中対策期の諸特性、③事後対策期における事故再

発防止情報の入手方法について報告した。

#### 中国の金融制度など

特講受講者を募集中

損保総研は二〇〇二年度

損害保険特別講座として『EUにおける消費者保護法制の最近の動向について』中国の金融制度と人民元決済と商業手形」の二講座を開講する。

開催要領は次のとおり。

EUにおける消費者保護法制の最近の動向について  
一 枠組み指令(Work directive)案等の状況

〈日時〉  
11月18日午後6時〜8時

〈講師〉  
岡谷直明(㈱三菱総合研究所産業戦略研究部主任研究員、中央大学大学院法学研究科非常勤講師)

〈受講料〉  
一般の人 六、七五〇円

損保総研賛助会社の人  
五、二五〇円

〈受講申込〉  
11月11日までに損保総研 必着

中国の金融制度と人民元決済と商業手形—人民元建ての送金や手形小切手はどのように扱われているか—  
〈日時〉  
11月21日午後6時〜8時

〈講師〉  
桑田良望(みずほ総合研究所(株)理事)

〈受講料〉  
一般の人 六、七五〇円  
損保総研賛助会社の人 五、二五〇円

〈受講申込〉  
11月11日までに損保総研 必着

※会場は両講座ともに損保会館会議室(東京都千代田区神田淡路町2-9)